

すずき歯科 スマイル通信 第50号

みなさん、こんにちは。

梅雨も明け、いよいよ夏本番！連日暑い日が続いていますが、熱中症対策をしっかりして、元気に乗り切りましょう！

当院のこだわり～安心・安全

つい最近、下のような記事が新聞に掲載されました。目にした方々はおそらく自分が通う歯科医院での実態がどうなのか、とても心配になったことでしょう。すずき歯科に通っておられる皆さんはどうぞご安心ください。

当院では、開院当初から患者様に「安心・安全」をお約束しています。その中でもこだわっているのが【感染予防対策】です。これは直接患者様の目に触れることではありませんが、感染から患者様を守り「安心・安全」な治療を提供するために開院以来 11 年間、毎日気を抜かず、徹底し続けています。

コップ、エプロン、グローブなど可能な物はすべて使い捨てにし、ミラー・ピンセットなどは患者様お一人分ずつをパックして滅菌、使用直前に開封しています。歯を削るドリル（切削機器）など口腔内で使う精密器械もすべての患者様ごとに交換し、滅菌しています。

歯を削る医療機器、半数が使い回し...

院内感染の恐れ【読売新聞】2017/07/03

全国の歯科医療機関の半数近くが、歯を削る医療機器を患者ごとに交換せず使い回している可能性があることが 2017 年の厚生労働省研究班（代表＝江草宏・東北大学歯学部教授）の調査でわかった。使い回しが7割弱だった5年前の調査に比べて改善したものの、院内感染のリスクが根強く残る現状が浮き彫りになった。

調査は「ハンドピース」と呼ばれる切削機器の管理について尋ねたもの。治療時に口に入れるため唾液や血液が付着しやすく、使い回せば細菌やウイルスを次の患者に感染させるリスクがある。日本歯科医学会の指針は、患者ごとに機器を交換し、高温の蒸気発生装置で滅菌するよう定めている。調査の結果「(全ての)患者ごとに交換」と答えたのは 52%。5年前の調査(31%)から 21 ポイント増えた。一方「感染症患者とわかった場合のみ交換」17%、「血液が付いた場合などに交換」16%。13%は滅菌

せずに「消毒薬で拭く」と回答した。(中略)



なぜ、切削機器を滅菌しないのか？

すべての歯科医院で徹底した滅菌を行えば院内感染の心配はなくなります。危険とわかっていても未だ半数近くの医院が滅菌しないのはなぜでしょうか？理由はいくつか考えられます。

通常のオートクレーブでの滅菌は時間がかかるため、患者様ごとに交換するには本数を多く準備しなければなりません。また切削機器は非常に精密で、滅菌のために熱をかけると故障しやすいうえに修理が高額です。さらに滅菌には手間がかかるため診療時間中に器具を滅菌するには人手も必要になります。

当院では、数多く切削機器を揃え、短時間で滅菌できる専用の滅菌器を 2 台用意しています。それでも、開院して 10 年がかかった切削機器の修理代金は 400 万円にものぼります。

また、クリーンスタッフを採用して診療中も常に器具の滅菌が出来る体制を整えています。

しかし滅菌をしてもしなくても保険点数は変わらないため滅菌を徹底すればするほど莫大なコストを負担することになるのです。

このような理由から切削機器を使い回す歯科医院がなくならないと考えられます。



すずき歯科の滅菌システム



丁寧に水洗いした器具は薬液の入った超音波洗浄器にかけます。微細な振動により、内部の細かい汚れまで落とすことができます



患者様お一人分ずつセットしてパックします



高圧蒸気滅菌器（オートクレーブ）に入れ滅菌します



プラスチックの歯ブラシなど熱に弱くオートクレーブにかけられない器具は Durr という薬液に浸して消毒し、その後ガス滅菌器で滅菌します

錆や高温による変質を避けるため切削機器はオイル洗浄器を使用します。その後 1 本ずつパックして専用の高圧蒸気滅菌器にかけます



うがい用コップや紙製エプロン、グローブは患者様ごとに使い捨てです
1 日でゴミ袋はいっぱいになります

これからもこだわり続けます

私たちの考え方の基本となっているのは「自身が治療を受けたいと思える環境を作ること」です。当院には他の歯科医院にお勤めの方も多く来院されています。一方、うちのスタッフは全員すずき歯科で治療・メンテナンスを受けています。医院のシステムを知るスタッフが自院で治療を受けているという現実が、私たちが日々安心・安全な治療を行えているという自信に繋がり、また証でもあります。